

はじめての陶芸

～基本的な道具と使い方～



有限会社 札幌陶芸

〒003-0021

札幌市白石区栄通15丁目8-38

TEL 011-852-2595 FAX 011-852-8771

<http://sapporotougei.com/>

① 基本的な道具

～ 使い方を確認しましょう～

種類・名称	用途	技法			
		手びねり	電動ろくろ	タタラ成形	
	粘土	発色、粒子、産地などの違いによって数多くの種類がある。初心者には信楽の粘土が扱いやすくオススメ。	○	○	○
	粘土板	作品をつくったり、乾燥させたりする板。塗装されていない木製の板が吸水性があって良い。	○	○	○
	タタラ板	板状粘土(タタラ)をつくる時に使用。3mm厚、5mm厚など色々な厚さがある。			○
	のし棒 (のべ棒)	粘土をのばして、板状粘土(タタラ)をつくる。反りが少ない材質で木製ものを選ぶ。			○
	型	板状に伸ばした粘土を押し付けたり、巻きつけたりして成形する。市販のパイプやボールなども利用できます。			○

		技 法			
種 類 ・ 名 称		用 途	手 び ね り	電 動 ろ く ろ	タ タ ラ 成 形
	カギベラ	粘土を削る道具。例えば粘土が半乾きのときに高台を削り出します。軟らかい粘土をくりぬいたりもします。	○	○	
	カンナ	カギベラと同様、粘土を削る道具。初心者が高台を削るならカギベラのほうが使いやすい。	○	○	
	針	粘土をカットしたり、穴を開けるときに使う。	○	○	○
	切糸 (ワイヤー)	粘土を切り分けたり、ロクロから作品を切り離す際に使う。	○	○	○
	切糸 (しっぴき)	電動ロクロの作品を切り離すのに使う。木の棒に麻糸やナイロンひもを20~30cm取り付けたものです。		○	
	切弓	ロクロに乗せた作品の口縁をカットする道具。	○	○	

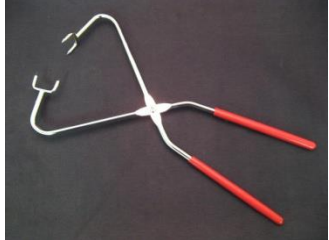





種類・名称		用途	技法		
			手びねり	電動ろくろ	タタラ成形
	なめし皮 (セーム皮)	水にしめらせて、作品の口縁を整える。カップなどの口当たりが良くなります。鹿の皮で出来ている。	○	○	
	手ロクロ (手回しロクロ)	手びねりで制作するときの作業台。タタラ成形の際、型をこの上に載せて制作すると便利なことも。	○		○
	電動ロクロ	粘土の塊を中心に置き、水をつけて動力で成形します。		○	
	へら	細工に使用します。いろいろな形状があるので必要に応じて用意します。	○	○	○
	コテ	ロクロを回転させながら作品にあてて、整えたり、ふくらませたりする。いろいろな形状があるので必要に応じて。	○	○	
	砂袋 (タンポ)	砂をビニールに入れ、それを布で覆い、きんちゃく状に縛ったもの。タタラ成形の際、型に粘土載せ、これでたたきます。			○

種類・名称		用途	技法		
			手びねり	電動ろくろ	タタラ成形
	片栗粉	さらし布(20cm角くらい)に片栗粉を入れ、きんちやく縛りにしたもの。パタパタと型などにまぶすと粘土がくっつきづらくなる。			○
	布	30cm角のさらし布など木綿のもの。1人2枚あると良い。粘土をはさんで、たたきしめたり、この上で粘土をのぼしたりする。			○
	ガーゼ布	30cm角のガーゼ布。赤ちゃん用のものが丈夫。離形用に型にかぶせたり、仕上げの際、直接粘土に触らずガーゼの上から指でならすときれいに仕上がる。	○		○
	スポンジ	しめらせて作品の仕上げに使用します。また、手や道具についた粘土の水洗いにも使います。	○	○	○
	ぼかし刷毛 か 歯ブラシ	粘土どうしをくっつけるときに使う。固い毛先で傷をつけながら水や泥をつけるとう着力が増す。	○		○
	釉薬	作品をコーティングするガラス。素焼作品につけて、約1200℃以上で本焼する。様々な色や特徴がある。自分で水を混ぜる粉末タイプと濃度が調整されている液体タイプとがある。			

②こんな道具もあります

～あると便利、可能性が広がる道具～

種類・名称	用途
	<p>下絵具 (呉須、ゴス)</p> <p>素焼きの素地に描く陶芸専用の絵具。水彩絵の具のように水で薄めて使用します。</p>
	<p>パステル</p> <p>下絵具同様、素焼きの素地に描く陶芸専用のパステル。</p>
	<p>転写紙</p> <p>素焼きの素地に、しめらせたスポンジで転写するシート。自由にカットして使用する。手軽に本格的な絵付けが楽しめる。</p>
	<p>撥水剤</p> <p>釉薬をつける際、釉薬をつけたくない場所(皿の底や高台)に塗る。水性、油性などがありそれぞれ特徴がある。</p>
	<p>ボーム比重計</p> <p>釉薬の濃度を計る浮きばかり。液体釉薬に沈め、浮き上がる高さで濃度を測定する。ガラスで割れやすいので取扱いに注意。</p>

種類・名称	用途
	<p>釉掛けハサミ</p> <p>素焼作品をはさみ、釉薬の中に沈める。釉薬で手をよごすことなく、作品にも手跡が残りづらい。</p>
	<p>霧吹き</p> <p>釉薬や絵具を入れて、吹き口から吹く。</p>
	<p>筆</p> <p>腰が強かったり、含みが良かったり、それぞれ陶芸専用筆ならではの特征がある。</p>
	<p>イッチンスポイト</p> <p>主に粘土を溶いた泥や化粧土を絞り出し、盛り上げるように装飾する。</p>
	<p>釉はがし刷毛</p> <p>はみ出した釉薬をはがす刷毛。</p>
	<p>ふるい</p> <p>使用前の釉薬をこれに通すことでダマをなくす。また、釉薬を自作するとき、粒子を整えるのに使用します。</p>

種類・名称		用途
	砥石	焼きあがった作品の底を滑らかにする専用の砥石。
	ゴムベラ	やわらかいので曲面をならすのに便利。成形の時に使います。
	ポンス	丸い穴を開ける道具を「ポンス」といいます。いろいろなサイズがある。
	型抜き	いろいろな形にくり抜いて照明をつくったりします。いろいろな種類がある。
	プラスチックベラ	粘土板やロクロに薄くついた粘土をはがす。タタラ板の表面をならすのにも使う。
	釉薬かくはん機	電動で釉薬をかき混ぜる機械。いろいろなサイズ、パワーがある。

③ 準備

～粘土にさわるその前に～

□ 爪を切っておきましょう

爪が長いと細かい作業の障害になります。

□ 汚れても良い服装を

必要に応じてエプロンなどを着用してください。

□ ぬれ雑巾をしぼったものを用意しましょう（最低1人1枚）

作業中、粘土をくるんで乾くのを防いだり、手をふいたりします。

□ フタ付バケツを用意しましょう

作業中は常に不要な粘土が発生します。乾かないようにこまめにバケツに入れていきましょう。固くなった粘土は状況に応じて、水にくぐらせてバケツに入れましょう。後でまとめて再生します。

□ 手や道具についた粘土は水を張ったバケツで洗いましょう

直接水道に流すと排水がつまることがあります。バケツにたまった粘土は後でまとめて処理します。

□ 作業に応じた道具や粘土を用意しましょう

作り方によって使用する道具は様々。必要な道具を選択して用意しましょう。